

日本医師会

地域住民支える医師顕彰 10月選考、委員に聞く

赤ひげ賞

日本医師会会長

横倉義武氏



高齡化が急速に進む我が国において、団塊の世代が75歳以上となる2025年には、そのピークを迎えることが予想されています。その一方で、若年層の人口は減少傾向にあり、医療の担い手が不足する懸念があります。赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。

重要さ増す、献身的診療

平成24年に創設された、今年で4回目を迎える赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。

ジャパンワクチン会長

長野明氏



赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。

「赤ひげ先生」周知に一助

赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。

患者さんに共感、医療の原点

宇宙航空研究開発機構
宇宙医学研究センター長
向井千秋氏



第1回から赤ひげ大賞の審査員をやっています。大変、光栄に思っています。審査の対象は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。

第3回 赤ひげ賞 表彰式



第3回赤ひげ大賞表彰式
昨年7月31日、東京都千代田区

かかりつけ医の大切さ再認

「かかりつけ医」の大切さ、選考会の方針、それを語り、大賞から小さな診療所まで、何気なく患者さんに向き合っている医師の姿が、赤ひげ賞の審査員には、何となく涙を誘います。赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。



タレント 山田邦子氏

「かかりつけ医」の大切さ、選考会の方針、それを語り、大賞から小さな診療所まで、何気なく患者さんに向き合っている医師の姿が、赤ひげ賞の審査員には、何となく涙を誘います。赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。

作家 小林光恵氏

安心与える存在



今年もまた「日本医師会 赤ひげ大賞」の表彰があり、日々情熱を持って地域医療を牽引し続けている赤ひげ大賞医師が増えることをうれしく思います。赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。



昭和館館長・宮内庁参与 羽田信吾氏

尊敬の念 新たに

厳しい環境の下で地域住民のために献身的な活動を行っている医師に光を当てる「赤ひげ大賞」も、本年で4回を迎えました。1回から審査員に選出された者として、現代の赤ひげ先生の活動への尊敬の念を新たにしています。赤ひげ賞は、地域住民の健康を支える医師の功績を顕彰し、後進の医師に励みを与えることを目的としています。

日本医師会 赤ひげ大賞
【主催】日本医師会、産経新聞社
【後援】厚生労働省、フジテレビジョン、BSフジ
【特別協賛】ジャパンワクチン株式会社
赤ひげ大賞HP
http://www.akahige-taishou.jp/

力をあわせて、未来を守る

ワクチンによる予防こそが、これからの医療の中核になる。ましてや感染症の予防は、ひとりを守るだけでなく、その周辺の人々、ひいては社会や、この国そのものを守ることに。そう信じる私たちは、新しい時代に向かって、力強く歩み続けていきます。